柿衞文庫コレクション

絵入り俳書の魅力

▸『いなご』〔複製〕

季吟著　朝三画　明暦2(1656)年

北村季吟の句集。
季吟の句に朝三が句意に添った絵を描く。
絵俳書の歴史は本書に始まる。

◂『わか菜』

玉蛾・桑也編　勝間龍水・英一蝶画

宝暦6(1756)年

江戸座の俳人 清水超波の17回忌追善集。
超波の遺句に龍水や一蝶が挿絵を描く。
色刷俳書の初期のものとして重視される。

【会　　期】**令和６(2024)年４月１２日(金)～６月２日(日)**

※会期中に一部展示替えを行う場合があります。

【休　　館】**月曜日**(但し4月29日、5月6日は開館)・**4月30日(火)・5月7日(火)**

【開館時間】**午前１０時～午後６時**(入館は午後５時３０分まで)

【会　　場】**市立伊丹ミュージアム　展示室１**

【観 覧 料】**一般200(150)円、大高生150(100)円、中小生100(50)円**

※(　)は20名以上の団体料金
※兵庫県内の小中学生はココロンカード提示にて無料
※伊丹市在住の高齢者割引有(平日60歳以上、土日祝65歳以上)

【主　　催】**市立伊丹ミュージアム［伊丹ミュージアム運営共同事業体／伊丹市］**

【企　　画】**公益財団法人 柿衞文庫**

企画展

柿衞文庫コレクション　絵入り俳書の魅力

美しい挿絵を配置して趣向を凝らして作られた俳諧の書物を「絵俳書」といいます。

絵俳書の歴史は、明暦２年(1656)に刊行された北村季吟の俳諧句集『いなご』に始まり、歌仙絵にならって俳人の肖像を集めたものや、句の意味に即した絵を添えたものなどがあります。

絵俳書がさかんに制作された享保期(1716～1736)には、墨一色刷だけでなく彩色刷のものも出版されるようになり、とくに享保15年(1730)刊行の一世市川團十郎27回忌追善集『父の恩』は、彩色刷絵俳書の最初のものとして注目されています。

さらに、宝暦6(1756)年刊行の江戸座俳人・清水超波17回忌追善集『わか菜』は、江戸の絵師・勝間龍水らによる挿絵の豪華多色刷の絵俳書で、明和２(1765)年に鈴木春信らによって創始された錦絵よりも先んじています。

そして、安永・天明期(1772～1789)には、与謝蕪村により俳画が大成され、円山四条派を中心とした画家たちが活躍し、様々な趣向を凝らした絵を楽しむ俳書が数多く出版されました。

本展では、公益財団法人柿衞文庫が収蔵する絵俳書とともに、絵俳書の編者や画者たちの直筆資料もあわせて展覧し、その魅力に迫ります。江戸時代の俳人たちの粋な楽しみであった絵俳書と、俳人たちの生きた証ともいえる直筆資料をどうぞお楽しみください。

【主な出品資料(予定)】　すべて(公財)柿衞文庫蔵

- 『いなご』〔複製〕季吟著 朝三画 明暦2(1656)年
- 『高名集』風国編 西鶴画 天和2(1682)年
- 『石なとり』秋色編 英一蝶画 正徳3(1713)年
- 『俳諧麻姑掌』允禿編 西川祐信等画 享保15(1730)年
- 『わか菜』玉蛾・桑也編 勝間龍水・英一蝶画 宝暦6(1756)年
- 『其雪影』几董編 蕪村画 明和9(1772)年
- 季吟筆「春月朧々」詠草懐紙
- 西鶴「曽の森や」句自画賛
- 英一蝶 芙蓉花と鶺鴒図
- 蕪村筆 俳仙群会図〔伊丹市指定文化財〕

など約40点

【お問合せ先】

市立伊丹ミュージアム

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前2-5-20　TEL.072-772-5959

～次回展のお知らせ～

特別展「季節を愛でる―俳諧と茶の湯」

令和6年6月14日(金)～7月28日(日)

会期中には記念講演会や関連講座を開催する予定です。
展覧会とあわせてお楽しみください。